



ダビデとアビシャグ Pedro Américo

ダビデ王は多くの日を重ねて老人になり、衣を何枚着せられても暖まらなかった。そこで家臣たちは、王に言った。「わが主君、王のために若い処女を探して、御そばにはべらせ、お世話をさせましょう。ふところに抱いてお休みになれば、暖かくなります。」彼らは美しい娘を求めてイスラエル領内をくまなく探し、シュネム生まれのアビシャグという娘を見つけ、王のもとに連れて来た。この上なく美しいこの娘は王の世話をし、王に仕えたが、王は彼女を知ることがなかった。(列上 1:1-4)

シュネムはイズレエルの谷の北側。遠い北で見つかったアビシャグはミス・イスラエル。美女は悲しいことに権力者の床に送られました。ダビデは最後まで、王として、男性として生きなければならなかったようです。

高齢者となったダビデの性的不能の状態も明らかになりました。さっそくハギトの子、4 男アドニヤがアブサロムと同じく戦車、馬、護衛兵などをそろえて、自分が王になると言い始め、反逆の再来となりました。彼は体格の良い堂々とした王子で、ダビデに甘やかされて育っていました。ダビデの將軍ヨアブと祭司アビアタルの支持を得ましたが、彼を支持しない祭司、預言者、ダビデの勇士達もいました。アドニヤはエルサレムの南、エン・ロゲルで、弟王子たち、支持する者たちを招き、祭壇を築き、燔祭を捧げました。その時、弟ソロモンは招かれなかったのです。

これを知った預言者ナタンとバト・シェバは危険を感じ、段取りを決めました。すぐダビデに「ソロモンに王位継承をすることになっていた」とバト・シェバは訴えました。さらに「アドニヤが即位の宣言をしたのはダビデの意向であるのか」とナタンが尋ね、「アドニヤの祝宴に自分も、ダビデの信頼する祭司ツァドク、將軍ベナヤ、王子ソロモンも招かれなかった」と付け加えました。高齢になっていたダビデはアビシャグの世話を受けながら、二人の言葉を聞き、愛する人、信頼する者の言葉を受け入れて、「あなたの子ソロモンがわたしの跡を継いで王となり、わたしに代わって王座につく、とイスラエルの神、主にかけてあなたに立てた誓いをわたしは今日実行する。」(列上 1:30)と、寢床で主の前にひれ伏し、ソロモンの王位継承を伝えました。ソロモンはダビデから主の戒めを守れと、また、最後の遺言も受



ギホンの泉

けました。そしてダビデは 40 年間の在位を終え、眠りにつきました。

ソロモンは都の水源ギホンの泉で油を注がれ、王になりました。それを知ったアドニヤたちは恐怖におののきました。アドニヤはエルサレムに戻り、祭壇の角をつかんで助けを求めました。ソロモンは兄アドニヤに潔く



祭壇の角

ふるまうことを求めて赦しました。けれども、アドニヤは王位への未練から逃れられず、ソロモンの母バト・シェバに一つの願いをします。「あのシュネムの女アビシャグをわたしの妻にさせていただけるように、ソロモン王に頼んでください。あなたの願いなら王もお断りにならないでしょう。」(列上 2:17)バト・シェバはソロモンにこの言葉を伝えました。アビシャグは、若く美しい処女であっても、一度王の妻となった身ですから、自由に出来るのは新王だけでした。それをわきまえないアドニヤを赦せないばかりか、それを伝える母にも、ソロモンはあきれ果て、非常に怒って、「どうしてアドニヤのためにシュネムの女アビシャグを願うのですか。彼はわたしの兄なのですから、彼のために王位も願ってはいかがですか。」(列上 2:22)と冷たい返事を返しています。そして、アドニヤと、アドニヤを支持したヨアブを処刑し、祭司アビアタルを追放しました。ソロモンの王座は揺るぎなく、その支配は確立したとあります。